

I 本年度のN I E活動の概要

N I E研究指定校２年目の活動として、昨年度に引き続き「普段の生活・授業の中に自然と新聞が位置づけられる」ことを大切にしながら、本校の学力向上テーマである「協働的な学びを通した確かな学力の定着」につなげていくことを目指し実践を進めてきた。

指定校１年目の活動や以前からの取り組みをベースにしながら、各教科で新聞活用の方法を模索した。教科によっては新聞を活用することが難しかったり、慌ただしい日々の中で研究の時間を確保することができなかったりと新聞活用が十分でなかった部分もあったが、校内でN I Eの良さを伝えたり新聞を活用することでねらいに迫れることを授業を通して実感したりと一定の成果が見られた。

II 全校での取り組み

1 信濃毎日新聞「斜面」の書き取り

〈内容〉

毎週末、国語科で平日行っている内容の代わりに宿題として取り組む。斜面の読み書きノートに国語科の教師が一週間のコラムから一日分取り出し生徒に配付をしている。取り組みを始めて４年目。

〈成果と課題〉

取り組みを通して、生徒の語彙が増えたり、読むスピードが速くなったり、主題にせまる感想が増えてきたりと力が付いてきた成果が感じられている。反面、書くことが苦手な生徒は積極的に取り組むことが難しい。

2 国語科２年生の小単元「新聞記事を比べる」

３年生の小単元「新聞の社説を比較して読もう」

〈内容〉

新聞記事や社説の比較として教科書に載っている教材だけではなく生徒が関心を持ちやすい内容を提示し、比較・考察を行っている。

〈成果と課題〉

授業日と近い日の新聞記事を準備したことで生徒たちの関心が高く、活発な授業となった。多面的・多角的な見方だけでなく、新聞を通して社会とつながることが実感できるという利点も見られた。

3 社会科単元「私たちの暮らしと経済」のなかで新聞記事を資料として配付

〈内容〉

新聞の経済面や社会面の記事を根拠に株価の変動について予想し確かめ、株価の変動について考える。

〈成果と課題〉

昨年度の公開授業の内容を、本年度も３学年の全クラスで実施した。グループ活動では新聞を使いながら「これが良さそうな内容だから株価上がりそうだよ」「これって株価

あがるのかな、それとも下がるのかな」など活発に言葉を交わしながら追究する姿が見られた。一方で資料の量が多く十分に活動が行えなかったクラスもあった。

4 図書館前に「新聞を読もう」スペースを設置

〈内容〉

図書館前に、いつでもだれでも新聞が読めるスペースを設置した。N I E 研究指定校として定期的に届けていただいている新聞数紙を置いた。

〈成果と課題〉

「新聞を読もう」スペースが設置された当初は足を止める生徒が少なかったが、授業や短学活でアナウンスをしていくと休み時間や教室移動の際に新聞を開く姿が増えてきた。新聞の設置については司書教諭の協力が得られスムーズに掲示ができた。また、本年度は編集委員会で作成した新聞と一緒に掲示をしたり、教師が選んだ記事などを掲示したりすることでより関心をもって新聞にかかわる機会が増えた。



「新聞を読もう」スペース

Ⅲ 公開授業の取り組み（社会科 公民的分野）

政党や政策を比べてみよう ～公約一覧表を用いて～

1 扱った新聞記事

「参院選 8 党の公約」
(2019 年 7 月 20 日付 朝日新聞)



「7.21 参院選 各党の公約」
(2019 年 7 月 20 日付 信濃毎日新聞)



2 小単元名 「現代の民主政治」（全 6 時間）

3 小単元の構造及び展開

【学習目標】

政治とは、社会生活上の対立や争いを調整・解消し、自由と権利を保障するために行われていることを理解するとともに、多数決の原理や選挙の仕組み、政党や世論の役割などについて理解する。

・学習問題 「生徒の学び」	【教材】 ※記事 用語・語句
1 だれを市長に選ぶべき ・X市市長選挙を通して、政治を体験してみよう。 「人それぞれさまざまな願いや意見があり、それらを調整しみんなが納得する結論をだしていくのは大変だ。現実の社会はどうやって政治を行っているのだろう。」	※千曲市長選挙結果 【だれを市長に選ぶべき？（ロールプレイ版）】
【単元を貫く問い】 民主主義の政治を行うためには、どのようなことを大切にしていいたらよいか。	
2 民主主義と政治 ・X市市長選挙の体験をふりかえり、民主主義の政治で大切にしなければならないことを考えよう 「民主主義は、一人一人を尊重することを基本にしており、民主主義の政治を行うためには、みんなで決めるということ（＝国民主権）が認められていなければならない。」 「民主主義はみんなで話し合っよりよい決定を目指す、意見が一致しないときは多数決で決める。その場合でも、少数の意見を聞いて、できるだけ多くの人々が納得するよう努めなくてはならない。」	民主主義 政治 直接・間接民主制 議会制民主主義 多数決の原理 少数意見の尊重
3 政治参加と選挙 4 ・選挙はどのように行われ、どのような課題があるのか考えよう。 「日本の選挙には4つの基本原則（普通選挙、平等選挙、直接選挙、秘密選挙）があり、日本国憲法で保障されている。これらが保障されない場合や選挙制度の仕組みによっては、同じ得票でも選挙結果が変わってくることがある。」 「一票の格差の問題や投票する人が少ないなどの課題もある。」	政治参加 選挙 死票 普通選挙 平等選挙 直接選挙 秘密選挙 小選挙区制 比例代表制
5 政党と政治 ・政党とはどのようなもので、自分が投票する際、どのように選択したらよいのだろう。日本の主な政党の公約を読み取ることを通して考えよう。 「政党は、国民と議会を結びつける役割を果たしている。政党を選択する際はイメージで判断するのではなく、自分なりのものさしをもち、各党の政権公約を比較して決めることが大切だと思った。」	※政党公約一覧記事 政党 政党政治 与党野党 連立政権 政権公約
6 マスメディアと世論 ・政治について公正に判断するためには、どのようなことを大切にしてい、情報に接していいたらよいのだろう 「政治について公正に判断するには、より多くの情報を集め、予算や将来性、優先順位など、さまざまな面から物事を考え判断することが重要だ。また、情報は、情報を発信する人の意見が反映されていたり、不正確だったりするから、批判的に読み取ることも大切だ。」	※新聞読み比べ （2紙の社説） 世論 メディアリテラシー

4 第5時 政党と政治

(1) 主眼

選挙を学習した生徒が政党とは何かと考える場面で、公約一覧を用いて各党の政策を比較し、自分の考えに近い政党を選んだり、グループで話し合ったりすることを通して、自分がどの政党の政策や考えに近いのか、また似ているのかについて関心をもつとともに、選挙では自分の考えをより実行してくれる政党に投票するイメージをもつことがで

きる。

(2) 本時の位置（全 6 時間扱いの第 5 時）

- ・ 前時：選挙の原則や選挙制度について学び、選挙の課題を考えることができた。
- ・ 次時：マスメディアと世論の役割について学び、政治における働きを理解する。

(3) 指導上の留意点

- ・ 公約一覧を 2 紙用意して、自分の興味ある項目で、比較しながら読むようにする。

(4) 展開

段階	○本時の活動 ・ 予想される活動の姿	☆教師の支援 評価	時間	資料等
導入	① 政党とは何か 政党とは何だろう。 ・ 実現したい政策について、同じ考えを持つ人たちが集まる団体。 ・ 日本には、多くの政党があるんだね。 ・ 自民党や公明党、共産党の名前は知っているよ。 ・ 安倍総理は自民党だったね。与党は自民党と公明党で、連立政権を組んでいるんだよ。 ・ それぞれの政党はどんなことを訴えているのかな？	☆ 政党について知っていることを発表させる。 ☆ 政党について知ることが出てきたところで与党・野党・連立政権などの用語を確認する。	10	学習カード
	公約一覧を用いて、各党の政策を比較し、自分の考えに近い政党を選ぼう。			
	② 政策比較 ・ 自分の考えに近い考えに色をつける。 ・ こんなに多くの党があるんだ。書かれている内容が盛りだくさんで、とても選びきれないよ。 ・ 各党の公約が分野ごとに整理されているんだね。まずは、どれか一つに絞って公約を比べてみよう。 ・ 自分の考えは〇〇党と同じ考えなんだ。 ・ 全ての政策を見通して候補者を決めるのは難しいね。他の人はどんな考えをもったのかな。	☆ 新聞社 2 社の公約まとめにも差があることを伝え、多様な情報の中から情報を選び出すことが大事であることを伝える。 ☆ 自分と同じ考えの記事には赤ペンでラインをつけさせる。まったく逆の考えには鉛筆でラインをつけさせる。	25	参院選における各党の公約（新聞記事）
	③ 自分の決定理由をグループに伝え、聞き合う。 ・ 友の意見や考えも自分の考えに付け加え、考えを深める。 ・ 私は消費増税について、政党を選択して	☆ 4 人のグループで自分が感じたことを発表する時間を取り、意見交換を	10	学習カード

	いたが、〇〇君は社会保障について選択していたので、いろいろな方向から考えることが大切だと思った。 ・選挙の時には、この政党の候補者に投票するのだろう。	促す。 ☆政権公約以外にも判断できる材料があることを伝える。		
終末	④学習の感想を記入する。 ・政党を選択する際はイメージで判断せず、自分なりのものさしをもち、各党の政権公約を比較して決めることが大切だと思った。 ・18歳になってからは投票できるようになるので、それまでに、社会で起きていることに興味をもち、しっかり選択できるようにしたい。	☆18歳になった際、選挙が行われた場合、今回の経験を踏まえて、投票ができるようになることを伝える。 選挙では自分の考えをより実行してくれる政党に投票するイメージをもつことができたか学習カードから評価する。	5	学習カード

5 授業の様子

【新聞を配付した後の生徒の様子】



T 「今年7月にあった参議院の選挙のいろいろな政党の公約です。全部読むの大変？」

A 生「大変！」

T 「(新聞を見せながら) 縦で見えていくと政党の違いがわかるよ。縦でいくつか(の政党を)読んでみて」

生徒…新聞を読んでいく。

⇒情報量が多かったが、聞いたことがある政党の公約や消費税などといった関心が高い項目があったため熱心に読み進める生徒の姿が見られた。

【自分の考えと近いものにアンダーラインをつけていく生徒】



T 「どうだった？真逆のことを言っている政党もあるよね。朝日新聞の公約を見て、自分が関心のあるところにアンダーラインを引いていこう。その後で自分の考えに近い政党を選んで学習カードに書いていこう」

⇒新聞を資料としてどのように使っていくかを明確にして活動を行った。アンダーラインを引きながら○△×と自分の考えと比較しながら活動

する生徒がいた。半面、情報量の多さからか活動が滞る生徒も見られた。

【個人の考えを伝え自分の考えを再構築していく】



T 「グループにして自分が選んだ政党を伝えていこう。その時に何の項目について見ていったのか、どこが選んだポイントだったのかを伝えてみて」

B 生「おれ、れいわ」

C 生「書いてある（新聞記事の）内容少ないじゃん」

B 生「消費税廃止いいじゃん」

D 生「それだけでしょう」

T 「話してみてどの政党に投票したいか学習カードに書こう」

自分の考えに近い政党は？		友達の政党		
どの分野で 外交、安保	どの分野で 社会保障			経済 消費増税
自分の考えに近い政党 社民党	政党 社民党	公明党		
メモ ・核兵器禁止条約への署名と批准 ・専守防衛を逸脱した武器の所持への反対 ・辺野古基地建設に反対	メモ ・待機児童解消	・幼児教育無償化 ・安全運転のための装置普及への支援		・増税への備え、年次有給休暇を取得可能制度促進

↓

どの政党に投票するのか？
公明党
選んだポイント ・外交、安保で社民党とほとんど同じことを目指し、消費税増税の対策がしっかりしている。

↑ グループ活動後に考えを変えた生徒

自分の考えに近い政党は？		友達の政党		
どの分野で	外交・安保	どの分野で	消費増税・経済	消費増税・経済
自分の考えに近い政党	共産党	政党	公明党	自民党
メモ	米軍新基地の建設の断念 対等、平等、友好の 新たな日米関係を築く。	メモ	増税必要(検討) AI外国人向け 金がかかる。	プレミアム 商品券の発行 暴力と専門 機関と協力 して強化。

↓

どの政党に投票するのか？	共産党
選んだポイント	米軍基地建設反対。 日米関係は良いと思うので、対等、平等、友好の新たな日米関係。
学習の感想・まとめ	
いろいろな意見の人の話をきいて、反対な部分もあれば、賛成の部分もあった。楽しかった。	

↑グループ活動を通して考えが広がったと考えられる生徒

⇒新聞を教材として利用し、個人が考えた内容を伝えあうことで学びが深まった生徒が多くみられた。

6 参観者の感想

- ・公約の項目を3つくらいに絞って考えさせてもよかったのではないかな。時間的に見てぎっしり書かれた6項目に目を通すことは思考が散漫になってしまうように感じた。
- ・「友達には十人十色の考えがあり、それぞれいいところがあった」「みんなそれぞれ選んだ政党が違っていておもしろい。さらにもっと政治について知りたい」と記入していたことからグループ内の協働的な学習の良さが表れていた。
- ・読み取りの授業は難しいと改めて思った。読み取りのための時間で多くをとられてしまうので、深める・共有する時間の確保が難しい様子だった。今日は読み取ることに時間いっぱい新聞記事を資料として対話する活動までは早いかなと思った。話す内容もグループにいる仲間の意見を写すというくらいだったので時間が欲しいと思った。けれど、新聞を通して子どもたちの会話が広がっていったかと思う。

- ・個人追究する場面において隣の男子に話しかけ相談する姿が見られるなど、日常的に協働的な学びにつながる場面が見られる。発問、与える資料を精選することで学びの深まりが変わってくるように思う。

7 成果と課題

○資料としての新聞の価値

新聞には教科書や資料集だけでは得られない情報や鮮度の高い情報があふれており、現代社会と子どもをつなぐ教材として多くの可能性を秘めていることが再認識できた。また、興味・関心が高い記事を資料として扱うことで自分の考えを確かめたり、揺さぶったりすることが効果的に行えることもわかった。

●資料の与え方について

今回の授業では、参議院選挙に向けての各政党の政権公約一覧を2紙分準備し、それらを紙面のまま配付した。読解力が高い生徒や、普段から新聞に触れている生徒は難なく読み進めることができたが、情報量の多さからどこに注目していけばよいか困ってしまう生徒もいた。資料の見方として項目を絞って比較することを教師が提案したが十分ではなかった。そこで、資料としての与え方・資料の扱い方を研究し、提示していくことでより高い効果が得られるのではないかと考えている。

IV 活動のまとめ

昨年度からN I Eの研究指定校としてたくさんの新聞を提供していただき、本校の生徒に確かな学力が定着するためにどのように新聞を活用していけばよいかを研究してきた。主に社会科の授業の中で活用してきたが、資料としての新聞の価値の高さを改めて認識することができた。さらに、新聞（身近な事柄を示した資料）をもとに自分の考えがもてた生徒たちは自信にあふれた表情で友に伝えたり、話し合うことで考えを深めたりする姿が多くみられた。N I Eは本校が目指す「協働的な学びを通した確かな学力の定着」につながるものとして今後も引き続き実践を積み重ねていきたい。

一方で、「普段の生活・授業の中に自然と新聞が位置づけられること」については課題が見られた。昨年からは各教科内での新聞活用を呼びかけたり事例を紹介したりしてきたが新聞の利用は限定的であった。新聞の良さは感じながらも授業で資料として使っていくことには一定のハードルが見られた。さまざまな要因が考えられるが、新聞を活用しやすい環境をどのように整えていくかについては今後も研究を進めていきたい。